

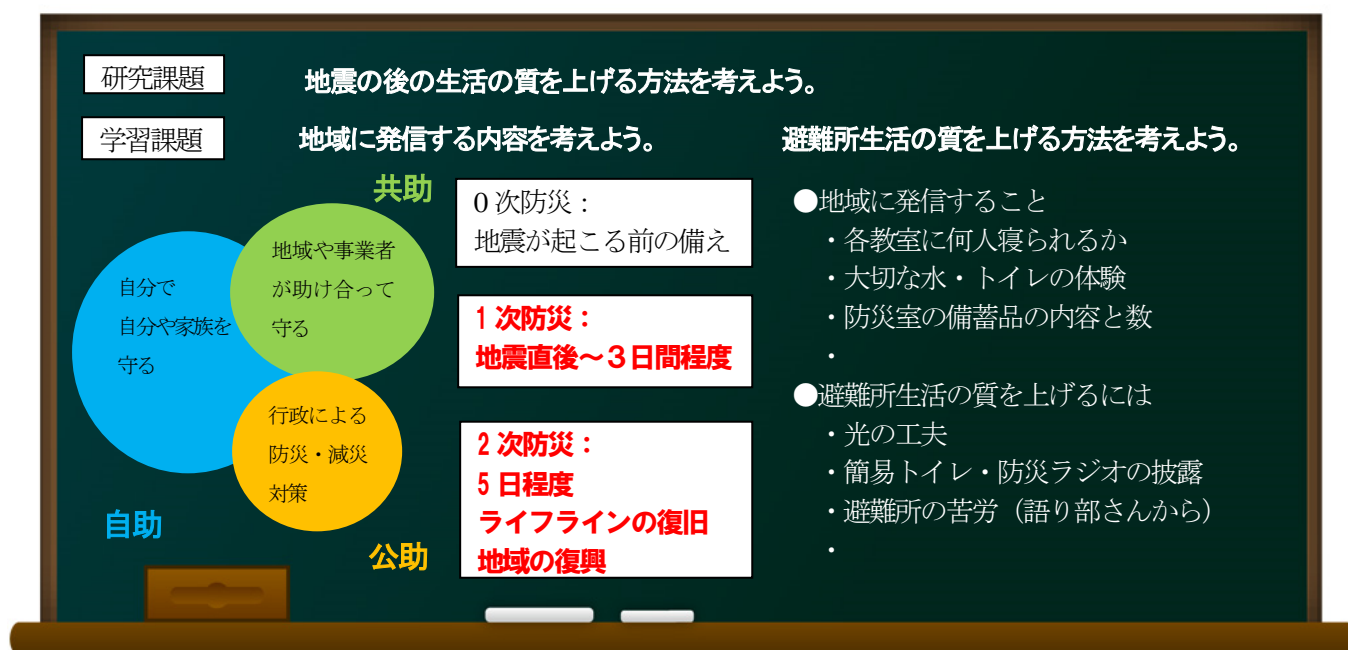
愛宕中学校第2学年 総合的な学習の時間「100年先も住みたい高知～共助と減災」

【本時（6/26）の評価規準】

評価	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
A	目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動できる		
B	ゴールをイメージして課題の解決にむけ計画を立案できる		
C	仲間と協働的に学習活動を行える		

児童・生徒の主な活動

学習課題 地域に発信する内容、方法についてアイデアを出して決めよう



①自助（1年防災フィールドワーク・起震車体験）、共助（2年心肺蘇生法講習）、公助（3年講演）を確認。

②今回、共助を扱う中で、0次防災ではなく、1・2次防災について考える事を知る。

主体的な学び

③「出した要望から研究課題決定！」とテーマを張り出し、今日の学習課題を確認。

④アイデアソンで出てきたアイデアを思い出し、地域に発信する内容を個人で考え、カードに記入。

個人

※避難所の立ちは教職員と生徒で行わなければならない、避難所運営は地域の方と生徒であることを押さえ、中学校のことを詳しく知っているのは生徒である自分自身でなければならないことを伝える。

⑤地震後の生活の質を上げることが研究課題であるから、質を上げるアイデアについて個人で考え、カードに記入。

※自分自身の個人研究のテーマに絡め、今後「防災キャンプ」をする上で、必要な物を考える。

ペア

⑥個人のアイデアを出し合い、タブレットに具体案を書き込む（ペンシル機能で入力・保存し、情報を共有する）。

対話的な学び

⑦他の班のアイデアをしり、良いものは応用し、欠点は補って、なおよい案をタブレットに書き込む。

グループ

⑧全体に表示し、意見交換し、今後の予定について知る。

全体

深い学び

生かしたい資質・能力

- ・一年生で学んだことや自分の中にある知識や体験や願いをもとに課題を設定する力
- ・学んだことを整理整頓しながら考えを広げていく力
- ・自分自身以外にも興味をもち、探究していくための計画を協力して考える力

言語活動充実のポイント

- ・防災について我が事となるよう、愛宕中学校の予想される危険についても一度振り返り、学習の必然性と学習の系統性をつかみ、同世代の活動や手記を知り、しっかりとした動機付けを目指す。
- ・現代社会に求められる「創造性」を高めるため、思考ツールなどを活用し、アイデアを発信していく。また、地域に学習内容を還元することで、自己有用感につなげ、言語活動の楽しさを体験させる。

言語活動充実のための教師の主な働きかけ

○愛宕中学校の総合では、防災学習をするのは必然性から来ていることを、振り返る。

条件：街中→火災が発生しやすい

条件：国分川の支流の久万川と鏡川に挟まれている

→津波浸水1～2m（産業道路2～3m）

→江ノ口小液状化少、一ツ橋小液状化中

→南面、東面一帯が河川浸水・洪水の危険あり

→住む場所によって一時避難場所が違う

条件：学区に山間部を含む

→被害想定がまちまちである

条件：高知県は、南海トラフ地震に今後30年以内に

直面する確率が74%に上昇している

条件：予想される死者数は4万9千人

○東北の中学生の手記、DVD映像等で同世代が頑張っている姿を知り、活動意欲を喚起させる。

・災害エスノグラフィー（文献も言語活動）

・修学旅行で映像確認、県ごとに比較

・語り部さんによる講演（聴くことも言語活動）

○活動の仕方、思考ツールの活用を知り、効果的に活動を進めていく。

・思考ツール一覧表を使って演習

・タブレットの使い方に慣れ、スムーズな意見交換

・CRWの考え方、アイデアソンで拡散、KJ法で絞り込み、ワークショップ形式でのアイデア披露、グラフ（円・棒・折れ線など）の活用術演習、PMI表で多面的に分析、P&Sシートで活動具現化

○総合的な学習の時間を通して身に付いた力を自己分析し、根拠をもって全体に発表し、自己肯定感を高める。

・自ら進んで学習するために他者からの評価だけでなく、自分自身の評価を行い、PISA型学習を目指す。

・探究的な学習にするために、自分たちで課題を設定し、目に見える活動に結びつけていく活動を通して、達成感を味わえる工夫をする。

・防災リーダーを育て、活動に厚みをもたせ、常に課題を明確にもつよう促す。

○本時の学習では、本時のめあてを確認し、三年間の集大成を見越すよう促す。タブレットで情報共有、情報交換を短時間にし、異なる意見を受け入れ、今までにない視点を重視する。

実践を振り返って

指導の効果

◆